

各国経済の6ヶ月見通しと向こう1年間の市場予想

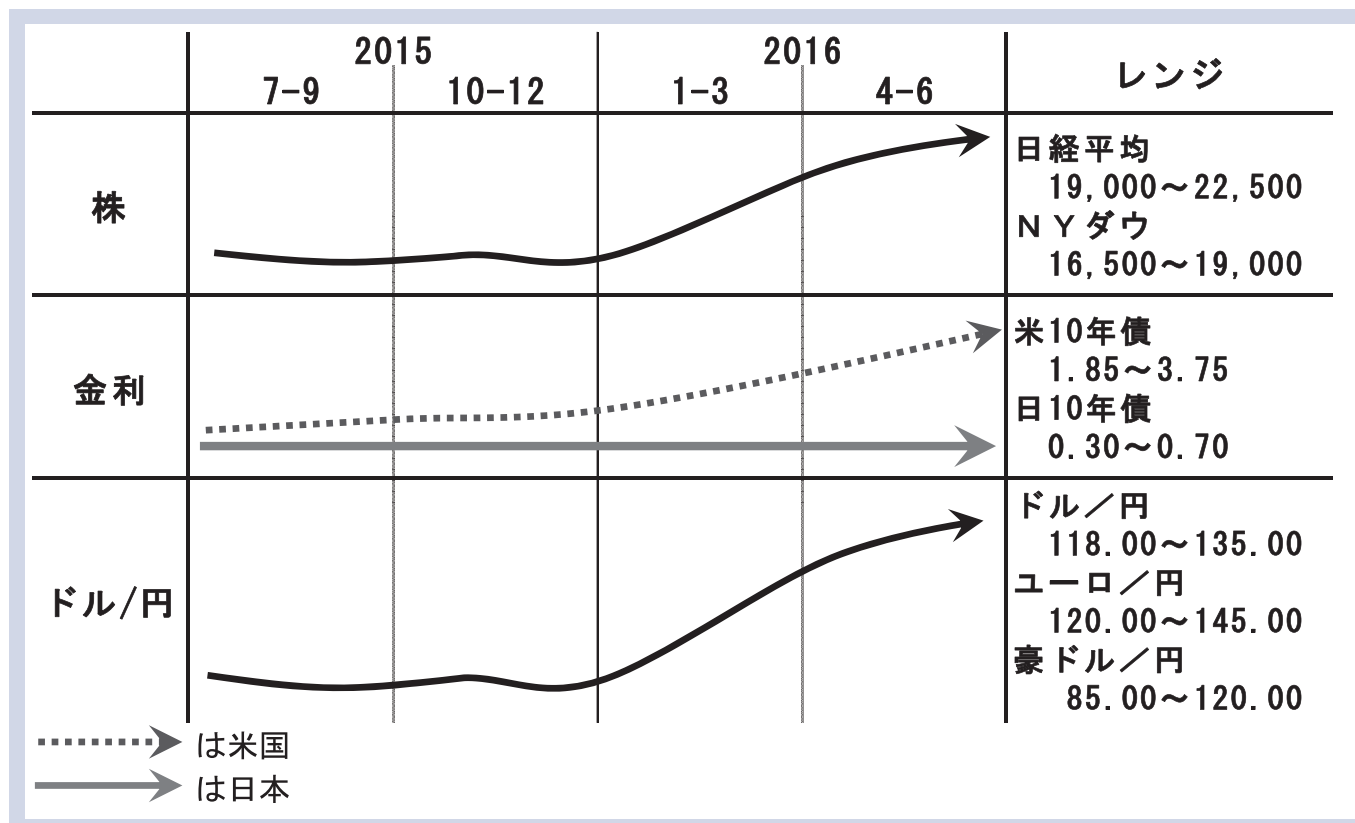
(7月8日時点)

グローバル経済・マーケット見通し

I. 各国経済の6ヶ月見通し

	コメント
① 日本	原油価格の下落は、資源輸入国である日本にとって恩恵が非常に大きく、景気押し上げに寄与するだろう。景気は足元で足踏みとなっているが、雇用・賃金が好調に推移していることや、企業収益の持ち直しを背景に設備投資の回復が見込まれることもあいまって、先行きは徐々に回復感が出てくると予想される。
② 米国	米国経済は、悪天候、港湾スト、ドル高などによって前半の成長率が鈍化したものの、年後半に安定的な成長ペースを回復する見込み。雇用・所得の緩やかな増加や、金融環境の改善等を背景とした個人消費の拡大、住宅市場の回復が予想される。また、経営者マインドの改善によって設備投資が加速する公算。
③ 欧州	ユーロ圏経済は、高い失業率や企業の慎重な投資姿勢が景気回復の阻害要因となっているものの、原油安、ユーロ安、金融緩和の効果浸透で景気が上向くと予想する。物価は、原油安の下押し圧力が緩和することから、小幅プラス圏で推移する公算。
④ アジア・新興国	アジア経済は、中国を巡る不透明感にくすぶるが、米国の景気回復は外需依存度の高い国などで景気を下支えしている。原油相場に底入れの動きはみられるが、低インフレを背景に金融緩和に動くなど一段の景気下支えに向けた政策余地は残されている。

II. 向こう1年間の市場予想イメージとレンジ



注)記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。